

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成30年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
30-2	交通流理論と AI 学習による非日常の発見とアラート発信	東北大学 教授 桑原 雅夫	A
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>交通流理論と AI 学習を用いて、移動体データと気象・地形データ等を融合解析し、リアルタイムに非日常の「発見」と「事前アラート発信」を行う手法を開発する。対象とする非日常は災害時の道路損傷、冠水、豪雪、Gridlock 等だけでなく、観光地やイベント時の渋滞も含む。</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <p>様々な移動体データや気象、地形データを用いて、非日常の発見手法の構築、非日常の事前アラート発信機能の構築・改良を進め、またこれらをリアルタイム可視化システムに導入すること等を検討している。具体的でまた実用的な研究成果が期待できることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 非日常の発見と事前アラートとの間のつながりなど、個別研究項目間の関係や、研究全体を通じたまとまりに留意して、研究成果をまとめていただきたい。</li><li>2. 非日常の発見や事前アラートの発信について、どの程度の時間遅れを伴って分析、予測が可能なのかが示されると、なお有用と考えられる。また、事前アラートの受信側として、道路や交通の管理者だけでなく、一般道路利用者を想定することも考えるとすれば、その場合の課題について議論があるとよい。これらについて留意いただきたい。</li><li>3. 立ち往生の事前アラートについては、融雪材散布や除雪に関する情報を加味することも検討いただきたい。また、可視化システムでは、提供画像の見やすさも重要な事項となると考えられるため、留意いただきたい。</li></ol>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第39回新道路技術会議において審議したものである。